

2026 年 9 月 9 日

全国の教会・伝道所の女性会の皆さま
教会に集う皆さま

日本バプテスト女性連合
6・23「沖縄（命どう宝）の日」推進委員会

「祈り便」第 71 信（8 月～11 月）のご案内

まだまだ肉の中（ローマ 8・6）

6・23「沖縄（命どう宝）の日」推進委員会委員 岡田富美子（那覇新都心教会 協力牧師）

感動の再会がありました。2004 年、辺野古の海を見ながら毎日座り込む地域の高齢者の方がたの間に
入れていただいていたところです。辺野古に立ち寄ってくださるいろいろな方がたの中にハワイ大学から来た
沖縄出身の学生さんたちがおり、その時いただいた名刺がずーっと財布の中にありました。彼女たちのうちの
一人が「沖縄にいる時には全然知らなかった、気づかなかったけれど、ハワイへ行って元々の住民の方がた
が自分たちの権利を取り戻そうとがんばっている姿からたくさん教えられました」と言った言葉が心に刺さり
ました。あれから 22 年。

その彼女の思いがつづられた東京 YWCA の機関紙、題は「奪われゆく日常、削り取られる魂—あなたに
伝えたい沖縄の現実—」。少し引用します。「日本の人に想像できるだろうか。（自分たちが※岡田追加）異
国に侵略され、日本語が奪われ、野蛮と罵られ、日本文化や精神性が否定されることを。先祖から受け継い
だ場所が捨て石と化して、軍事基地だらけの島になることの苦しさ、悔しさを」。故郷を愛する者の思いがあ
ふれています。

「日本語が奪われ」という一文をとっても、琉球語を話してスパイ呼ばわりされ、命奪われた沖縄の人びとが
たくさんいたこと。言葉をしゃべることがまさに命掛けだったことをわたしは真剣に考えたことがあるだろうか。
あれやこれやと自問しつつ、沖縄に住んで 25 年経っても関西なまりの出るわたしを生かしてくれているこの
地の方がたに感謝したいのです。

きょうも辺野古テントには、どっさりの生花がささげられ亡くなられた方がたへの申し訳なさ、悲しみを届けて
います。

6 月 20（土）～23 日（火）まで、第 17 回 6・23「沖縄（命どう宝）の日」学習ツアーがあり、全国からの
友たちと沖縄の現実に触れることができました。知らなかった罪を知らされ、そんなわたしたちを愛してくださ
る沖縄の方がたに出会う時、また「貝と言葉のミュージアム」主宰、名和純さんから、「どんなに痛めつけられ
ても再生し続ける貝たち、また渚」を知らされる時、愚かなわたしたち人間を憐れみ続けてくださるイエスさま
の眼差しを思わないではいられません。ツアー参加者と背後で祈り支えてくださった方がたと共に希望の 1
ページを開いた思いが与えられました。

「肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります」（ローマ 8・6）

（『世の光』2026.8 月号「沖縄—知る・祈る・共有する—」より）